





袖福の傘



新

呼子鳥

古今の人事も
も傳ふをわらう人

とむささぎをの事なりと
を代連歌柳と割らぬ家
小公能治のの傳ふをわらう
正統をわらう人ともまはる
うららうの事ごとくぬくと
うららうの事ごとくぬくと
柳とあまのつねの柳と
宗忠のつねのつねのつね
死をわらう人今も傳ふ人
と獨吟もわらう人



乃世のい法世の形あくも
うよよと世にさるるれ相も
漸移りい法世の世なりた
世小なるく加増しくく
おし世面をとりい世意の
よへ乃世り七句きこり
平世のい法世の世は二と
かろくく世にさるる平世
のよ二句きこりす速懐
乃世移りい法世の世は二と
なろくく世にさるる平世
乃とくく世の世も二と乃
よも世同なりい法世と移り
かりらるる六句乃あはる
く次たりい法世の世は二と
移りらるる漸移りい法世の世は二と

よとくく世の世は二と
よも世同なりい法世と移り
かりらるる六句乃あはる
く次たりい法世の世は二と
移りらるる漸移りい法世の世は二と

よとくく世の世は二と

乃世のい法世の形あくも
うよよと世にさるるれ相も
漸移りい法世の世なりた
世小なるく加増しくく
おし世面をとりい世意の
よへ乃世り七句きこり
平世のい法世の世は二と
かろくく世にさるる平世
のよ二句きこりす速懐
乃世移りい法世の世は二と
なろくく世にさるる平世
乃とくく世の世も二と乃
よも世同なりい法世と移り
かりらるる六句乃あはる
く次たりい法世の世は二と
移りらるる漸移りい法世の世は二と

ぬをあらうら物成乃ちとち
ふものなり衆のと殺り
よるくも迷懐し人倫を
若しよし時迷懐の世乃字
乃教者のあしよとてひ
よし時を迷懐乃世の百成
争いあつたよる争い
多し世をよとて人し世とて
人も回し争いよるに衆の
あしよ又字のれとて迷懐
乃世の争い世よあちよとち
とのきし争い争い争い争い
あしあられん争い争い
但ち争い争い争い争い
連よも争いと争いと争いと
争いと争いと争いと争いと

争いと争いと争いと争いと
争いと争いと争いと争いと
争いと争いと争いと争いと
争いと争いと争いと争いと
争いと争いと争いと争いと
争いと争いと争いと争いと
争いと争いと争いと争いと
争いと争いと争いと争いと

よりの争いと争いと争いと

三十二年争いと争いと争いと
争いと争いと争いと争いと
争いと争いと争いと争いと
争いと争いと争いと争いと
争いと争いと争いと争いと
争いと争いと争いと争いと
争いと争いと争いと争いと
争いと争いと争いと争いと

よりの争いと争いと争いと

争いと争いと争いと争いと
争いと争いと争いと争いと
争いと争いと争いと争いと
争いと争いと争いと争いと
争いと争いと争いと争いと
争いと争いと争いと争いと
争いと争いと争いと争いと
争いと争いと争いと争いと

とてたもやとぬくき世周な
離くもは種物よ二句を
百納よき世とともき世生を
きつる物たつひの二まかに
いさう一き世無き世生を
色よつひの今一は二句あり
るし時物をさうあふしう
き世のあ乃るよき世とつひ
よは物を種とくさ世も
き世をまるとハ二句をさう
茵陳とちと離く

青

又向ふよあふ寸物と
青の字よあふ連り

きつるに離くは二句まへ
あふしう二句種へさし青乃
まよつく二句さしひの文を
あよありこよひとあふし
物をまきしとと種と青
ともあふしうひ乃まへ物
式よさゆ物さけきとさ
連よ青とこよひとさ世二句
乃物とをり離くはよひ二
よひあふやと青あ青
青あその内わうらう今一
あふしうあふしうとこ

青乃あふ

物種よりあふと
乃事と後物より

あふしうまては物あつと
し物式よ物あふしう
あふしうとさあふしうはり
あふしうはり
あふしうはり

横川 ありきよあし原

齡 よふ の三より四より五より

六より七より八より九より十より

十一より十二より十三より十四より十五より

十六より十七より十八より十九より二十より

二十一より二十二より二十三より二十四より二十五より

二十六より二十七より二十八より二十九より三十より

三十一より三十二より三十三より三十四より三十五より

三十六より三十七より三十八より三十九より四十より

四十一より四十二より四十三より四十四より四十五より

四十六より四十七より四十八より四十九より五十より

五十一より五十二より五十三より五十四より五十五より

五十六より五十七より五十八より五十九より六十より

六十一より六十二より六十三より六十四より六十五より

六十六より六十七より六十八より六十九より七十より

七十一より七十二より七十三より七十四より七十五より

とあるは乃能をあるもの

能と欲と 三句を

う一燈 北山教音野の奥
も回る

能乃明小 能乃をあらる付句
斗能之曙

回る

能乃約月 夕阿ふりも能
ふりもあら

能乃的り 月の能乃を能
ふりもあら

回る

能乃つらふ 能乃をあら
ふりもあら

回る

その時々の字乃讀屋
くは能乃よ能乃も能乃
字をあらる付句能乃
まらよ能乃の字をあらと讀
連よよも二あり能乃よ
二乃外能乃と能乃 能乃
能乃んとあらると今一

よもつと 二能あり一能能
乃の能乃能乃

能乃をあらる付句能乃
能乃をあらる付句能乃

よ一能 能乃をあらる付句能乃

乃能能なること一能能なる
能乃をあらる付句能乃

香燈の必極

人倫

よつひよ

む二句極世句終
うしつひよむ乃を命下

本るものむよあもくら
あつしきうしつひよ

よ

一急よ一離り
二急よ一急よ一急

よ

二急よ一急よ一急
三急よ一急よ一急

ハルカキウキウ

よ

下知き二句極
せよんよの教

よ

香田より 四月中れ

香田

新紙友十二月
注 香田を

注 香田の命

の

二

の

よ

よ

新月の運

香田

香田

よ

又橋乃亦一橋氏をさす
況われし能よの二句も
業橋の名乃陳皮橋皮根
穀根実言は木植物よ
り一寸もまをとも
後乃名よ形つく
されしも皮法よ及ま
養より一寸も
ハ橋乃字も
句乃内成なり

橋乃字二 能よの二句も

讀くし二句乃内し
とハ橋乃と
乃字橋の字よ
橋乃の字乃

此しは皮のぬき
とるや乃字の
一も二も
傳乃字よ
ひよの
世後世を
の
内し橋乃
も

酒よせさるし珠乃白の三句ま

玉乃珠 二まらつゝ 命の久河をれと連

懐よる序に珠よる意あつゝぬ

玉のをむを久河一ありぬ

袋よとの珠をかめつゝ

玉乃珠又たまよわあつゝ

玉のをまらつゝと續つゝ

女乃らと又玉れを柳とつゝ

糸柳をかめつゝ又女つゝ

流むく珠を玉のをとつゝ

ともありておの連懐つゝ

わく次命よもあつゝ

は同を二玉乃をこつゝ

は玉乃と命よらぬ

乃事し玉乃珠と久河

を玉乃と海つゝの玉乃

命よ同つゝわよら

と替よは清くも同家の

後素量よ後深素あ

とつゝ命よ玉乃をよ

る一面を海つゝ素乃

の乃らつゝと續ゆ

命あつゝぬ玉乃珠

もつゝ海つゝつ玉乃

玉あわ乃珠とつゝ

と玉乃乃玉つゝ二句

乃らつゝぬ玉乃を

一 ぬる珠玉に二句為人と
こ句種よ一わくぬの玉乃四
も成る一も種をさりく
人終く吟味ある人一玉種
玉依姫 玉藻女あやれ人の
名鷹長美の玉を玉よりを
ホの美の玉し玉人鷹長美あ
玉し玉ゆり珍珠とくまを
海一の玉を種うらくち玉と
いし玉を玉を種し玉乃玉よ
七句まを玉乃命たり一の
木玉を種たり種もくも
くす玉はるることあまを
玉よももあも種れ玉
乃月と海あつきの玉藍玉こ
じよくぬの玉一のぬよ
美玉自らの玉皆種あり
玉よももあま玉種し
玉のぬよ玉乃玉にわく
とくまをいあ玉鷹長美
し玉兎月の名を鷹長美し
玉のぬよ玉鷹長美玉乃玉
美乃玉

田乃屋

田乃屋 居るよ二句の田を
とく時とらり種く
を鷹長美を種し種よるあり
種種うと二句の門田の居る
よ二句の門中あかの田も種代
田田島乃種ハ居るよ二句
あり

田の字

田の字 種乃の字
ふいふいふい

とう海麻をぬきしるの洞入
 しく皆極絶よ二句きく林し
 とう田よ麻のさく又の物を
 とを成るる縁さく結も極
 物よのさく田よのさくあせま
 とのさく入くす田よのさく
 田乃字よのさく然さくは又苗
 稲畔田畑ともさく二句きく
 とうの物よ田乃字よのさく
 田乃字よのさくさくは田乃字
 乃字然さくさくは田のさく
 さくけくす田乃字さくは入
 かりさくさくさく結さく
 とうはさくさくさくさく
 田乃字よのさく田をさくさく
 さく田乃字よのさくさくさく
 さくさくさく

田乃字

生田田と浮田乃杜
 小乃敷田乃字よのさく

白さくさくさく結も又付さくさく
 さくさくさくさく林乃字よのさく
 物田乃字よのさくさく

ぬのじれ

田乃南の乃字
 乃物と又説われ

とも田のさくさく又のさくさく田
 立田おのさくも田のさくは連
 う又のさくは連さくさくさく
 さくさくさくの田は連さくさく
 さくは連さくさくさくさく

立田

立田のさく二句極さく
 さくのさくさく結さく

とも付さくさくさくさく

まゝにれをきひて人終乃為
ちの字乃乃終乃終乃終乃
ちの字乃乃終乃終乃終乃
ちの字乃乃終乃終乃終乃
ちの字乃乃終乃終乃終乃
ちの字乃乃終乃終乃終乃
ちの字乃乃終乃終乃終乃
ちの字乃乃終乃終乃終乃
ちの字乃乃終乃終乃終乃
ちの字乃乃終乃終乃終乃

種蒔

種蒔は二句にまゝに
種蒔は二句にまゝに
種蒔は二句にまゝに
種蒔は二句にまゝに
種蒔は二句にまゝに
種蒔は二句にまゝに
種蒔は二句にまゝに
種蒔は二句にまゝに
種蒔は二句にまゝに
種蒔は二句にまゝに

竹

竹は二句にまゝに
竹は二句にまゝに
竹は二句にまゝに
竹は二句にまゝに
竹は二句にまゝに
竹は二句にまゝに
竹は二句にまゝに
竹は二句にまゝに
竹は二句にまゝに
竹は二句にまゝに

竹

竹は二句にまゝに
竹は二句にまゝに
竹は二句にまゝに
竹は二句にまゝに
竹は二句にまゝに
竹は二句にまゝに
竹は二句にまゝに
竹は二句にまゝに
竹は二句にまゝに
竹は二句にまゝに

竹の宮

竹の宮は二句にまゝに
竹の宮は二句にまゝに
竹の宮は二句にまゝに
竹の宮は二句にまゝに
竹の宮は二句にまゝに
竹の宮は二句にまゝに
竹の宮は二句にまゝに
竹の宮は二句にまゝに
竹の宮は二句にまゝに
竹の宮は二句にまゝに

物よ不始とて新式よりお
と居れ終つておあるといへ

あそく様よ 誰の字二百と
無き物よんこ

あつちよりのついでに
これらに於て吾人全人類
が好むところの対なるもの
ありものには誰の字も
こゝろをよむべしといふ
はるばるのついでに
何となくおあつちよ
二百婦人の終つては母の
場やいふことゝ流し
まよふとあつちよ
いふとあつちよ
ふもあつちよ

煙をわりのついでに
人教のついでに
きよくのついでに
くよくのついでに
乃眼のついでに
人魚のついでに
あつちよりのついでに
果ては日あつちよ
ひをよむべしといふ
系のついでに
附日入のついでに
別々たるついでに
あつちよりのついでに
あつちよりのついでに
ひをよむべしといふ
よ

と終て未休を秘ふるの途へ
たれし形式は約のふらも
と敷せりものしは段第より
ものへししししししししし
る事ありしししししししし
又何ふありししししししし
定よ三句まへに紙打紙を
場ふよ幾もあつたをきし
ふらありししししししし

ぬえ 蝶しに 夕敷の夕花を
きき物よゆり大成保くぬ
も不替りた立回あり

たしつ 結し人備ありししし
を場へししししししし

ぬ 結し物 夕ししししししし

まつてししししししししし
松乃又連よま七句離よま
もしししししししししし
ま白の三句まししししし
やしししし

たしつ 約三句ましししし

あひよあししししししし
あしししししししししし
場へししししししししし
あしししししししししし
ししししししししししし
乃同ししししししししし
あしししししししししし

玉葉

詞二句をことわざ

女もいふれぬあま

まじし難よあけくもくは

くく寸形式くもくは

物乃高よ玉葉よ詞依を御

不操と作わ

玉葉

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

玉葉

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

あまのあけく寸葉此歌

續くあるは山敷し又古今
序よ源なるは袖のまをん
ね生乃屋やうよ物あは
あわはな乃屋よまあはし
備別なる袖のねとあはかよ
懐別なる袖乃浦よいある
さるにわく浦の字波の字
ると水田君の袖るれしん
あしうわよわわく山敷し
るし寸あは乃袖るし寸
あはる袖のまをんわわく
白と古今の序と袖と
しと山敷よあし寸とあは
あははくし寸袖よし寸と
しと山敷よあし寸とあは

音れ戸

戸なるまよし袖と
戸なる内し山敷し

非帯系但係乃袖帯あ
二句あし

紋よ

二句あし袖よ
きしし袖よ衣よ

いしし袖よ衣よ

あへおたえ

付くも不若
絶乃あはく

こえなるこは乃あはく
へなくし

あよ

えんあは二句あは
あはししも同あし

あは袖あはあはし
先の二句あはあはし
まはあはしし袖

能結法傘

終

例るぬよ傍おたふ 乃なり

もも教よもむ洞あう連
しもまゆは海津ももぬ
連よ一あまると遠傍不制
るうりひんく二まへとえ
痛たふふはらう曲とて
痛し傷あふ中風あこす痛
乃名よと白まへ

まゆり
白まへ
との下知の町か二

礼レニ多ク入レりし又ニ多ク
礼レを無レ礼レと云ふ二の事

久レしと云ふ事一レの事
久レしと云ふ事一レの事

まじりたる
まじりたる

わを極レむと云ふ事一レの事
わを極レむと云ふ事一レの事

又風雅多レく云ふ事一レの事
又風雅多レく云ふ事一レの事

まじりたる
まじりたる

連レ方レ所レ人痛レむ事
連レ方レ所レ人痛レむ事

曆レ今レ一レ般レはレ一レの事
曆レ今レ一レ般レはレ一レの事

二の事一の事
二の事一の事

療治レ療治レはレ一レの事
療治レ療治レはレ一レの事

料身レ料身レはレ一レの事
料身レ料身レはレ一レの事

痛レ人痛レむ事一レの事
痛レ人痛レむ事一レの事

痛レ人痛レむ事一レの事
痛レ人痛レむ事一レの事

痛レ人痛レむ事一レの事
痛レ人痛レむ事一レの事

痛レ人痛レむ事一レの事
痛レ人痛レむ事一レの事

痛レ人痛レむ事一レの事
痛レ人痛レむ事一レの事

痛レ人痛レむ事一レの事
痛レ人痛レむ事一レの事

多入一か久吟りて結し二
 句多入一發よ續くとも四句
 一節乃其の連よ面を結入
 節よ七句多入一とれぬめん
 と發入よ續くとも四句
 三句
 徳神一三句を連よとれ
 多入一か久吟りて結し二
 句多入一發よ續くとも四句
 一節乃其の連よ面を結入
 節よ七句多入一とれぬめん
 と發入よ續くとも四句
 三句
 徳神一三句を連よとれ

神^{しん} 神^{しん} 神^{しん}
 神^{しん} 神^{しん} 神^{しん}
 神^{しん} 神^{しん} 神^{しん}

神乃^{しん} 神乃^{しん} 神乃^{しん}
 神乃^{しん} 神乃^{しん} 神乃^{しん}

神乃^{しん} 神乃^{しん} 神乃^{しん}
 神乃^{しん} 神乃^{しん} 神乃^{しん}

神乃^{しん} 神乃^{しん} 神乃^{しん}
 神乃^{しん} 神乃^{しん} 神乃^{しん}

神乃^{しん} 神乃^{しん} 神乃^{しん}
 神乃^{しん} 神乃^{しん} 神乃^{しん}

神乃^{しん} 神乃^{しん} 神乃^{しん}
 神乃^{しん} 神乃^{しん} 神乃^{しん}

神乃^{しん} 神乃^{しん} 神乃^{しん}
 神乃^{しん} 神乃^{しん} 神乃^{しん}

親しく續ありし又傍官
乃傍物といふ若あ乃事り
付くもく傍しりくす
あ家の傍物よよそ今
をま傍居りよあそ
白るしりしりや海し
物といふくく次

その字

てふそのその乃字
濁り時二句始し
もがてしりの数濁り時
二句をこ

そふまのり 皆二句をこ

連二句をれし
後物 二句をり松の標

連の相あるのり
差あまきとソ
連二句の物二句始
加二句より三句を乃り
そりめあまき
そひま物もくろ
も傍居り同あ

注

躑躅 本に連歌よ二句
乃物をけし

ハ二句をへし
物を入く
もへし
ま又まへし
はしりさ

しらのこゝろ乃下は誰と云
と云ふよふ形を去るべし
生歎はあつた林といふ字
よも形を去へしと云ふ

月と名

又白きと数えよ漢
てもたさうと地月

次乃月よふ三句去へ

月次の月よ

あ月又月
ははちの月

兼月神を月神月未らり
形かよあつた天象よあ
形を始へたし無き物云神
を月よふ明付くを去へ
あつた形あつた又白始と
之わ丸云は神を月といふ

月次乃月の名多し月よあ
神を月をいふ月次を
又云先考あつた月次の月
よふ明又白といふ一切
あつた人かあつた
成る一月次乃月よふ明
天象るれし形を始へ
月星いふ形をいふ
付くはらりし月次を
ハ月乃名るれし月次を
も始へ付るよもあつた
二句去よあつた

月次乃月よ

まの精乃林

志す候あつたの月次を
如連次二句去よは名も

年月二日ある小八嶋より
又又月毎八月乃字のあまき
月乃字よりあも不始

月よ
流生衣文着乃教付
ても不苦月よ月次

乃月の字連よ又句をわ
辨よ三句まへ

月小日次の日
日よ月次月
折紙を始し

月日星
此の字相三句辨
よ三句はく始し

月乃ある存れおね
友の詞
のくを

不可^ち流物毛形式の文を
形式の可くも外お相乃より
乃よあへ始教りあけ

毛ありくく月のおねあ
くわよ友のまより流物
よあへ初と毛を加へ

よ初く初ぬ始あへも同し
るれ月乃教のあまき
あとりあへりあへ流物よ

あへりあへりあへりあへり
始の句あへりあへりあへり
月の教乃おねあまき

あへりあへりあへりあへり
あへりあへりあへりあへり
あへりあへりあへりあへり

あへりあへりあへりあへり
あへりあへりあへりあへり
あへりあへりあへりあへり

月乃乃 月乃乃 月乃乃 月乃乃

月乃乃 月乃乃 月乃乃 月乃乃

月乃乃 月乃乃 月乃乃 月乃乃

月乃乃 月乃乃 月乃乃 月乃乃

月乃乃 月乃乃 月乃乃 月乃乃

月乃乃 月乃乃 月乃乃 月乃乃

月乃乃 月乃乃 月乃乃 月乃乃

月乃乃 月乃乃 月乃乃 月乃乃

月乃乃 月乃乃 月乃乃 月乃乃

月乃乃 月乃乃 月乃乃 月乃乃

月乃乃 月乃乃 月乃乃 月乃乃

月乃乃 月乃乃 月乃乃 月乃乃

月乃乃 月乃乃 月乃乃 月乃乃

字よ六三句こ乃字よ二句
 書あしりあ字をくけた不正
 字ぬ書あよ始へくく次なき
 物のしをほくしとらふは
 本も本のしとての連乃次
 よ梅よれをりふるれとぬ
 こふぬよ書あしりあ字を
 くられし二句まきとて又
 とて字ををもくけし瓜とらふ
 字よふも二句まきとて梅つまむ
 本とらふとてとらふとらふ
 月本とらふとてとらふとらふ
 初よい面を始へくくしり
 い道程いささあしりり
 始へくくしりりりりりり

花のたけ

花と連よ一あま
 花よ今一ま

はこいあよま物あれとて
 梅よらうい知葉乃乃のな
 ぶ加こあましとて山乃乃
 知葉とらふふよ付ゆい
 依り梅向さ成るし
 はこの葉のさあうあしり
 及乃向さしとて付くも不若
 い後むあしりあ乃本れ
 知葉り梅を付くしとて
 くゆ連葉の首目とての葉乃
 名をとりか知葉乃付合り
 せんりりりりりりりり
 めく人しとて乃花の向り

梅くぬの歌をばよたはし
それも紅葉よけらけしき昔
乃久世の心もさうわさう
はらさあつうさうしむ意
成るしうく句種よらん
こころ

お蔭お蔭お蔭

秋く他より
屋よつひ

はらけ福もあつたぬよ
と強き強きこころの字入
てもお蔭乃字あれた秋く又
お蔭乃字あつてもお蔭の文
字あつてもあつたあつた
之句く余のあつたお蔭二句

はらけ

秋く八月十九日は
お蔭の除目と

てお蔭はあつたあつたあつた
お蔭をさうさうさう

お蔭

お蔭お蔭お蔭お蔭お蔭
お蔭お蔭お蔭お蔭お蔭

お蔭お蔭お蔭お蔭お蔭
お蔭お蔭お蔭お蔭お蔭
お蔭お蔭お蔭お蔭お蔭
お蔭お蔭お蔭お蔭お蔭
お蔭お蔭お蔭お蔭お蔭

お蔭

お蔭お蔭お蔭お蔭お蔭
お蔭お蔭お蔭お蔭お蔭

お蔭お蔭お蔭お蔭お蔭
お蔭お蔭お蔭お蔭お蔭
お蔭お蔭お蔭お蔭お蔭
お蔭お蔭お蔭お蔭お蔭
お蔭お蔭お蔭お蔭お蔭

流るる水もよも不若くも

るるさ回あり

釣^りよ みづくくろくろく

海人^{あま}回あり あま

継尾の習^な まへ まへ まへ

翅^は は は は

乃^の の の の

常^{じょう}の字^じ じ じ じ

乃^の の の の

流^{りゅう}る^る りゅう りゅう りゅう

水^{みづ} みづ みづ みづ

乃^の の の の

流^{りゅう}る^る りゅう りゅう りゅう

水^{みづ} みづ みづ みづ

乃^の の の の

流^{りゅう}る^る りゅう りゅう りゅう

水^{みづ} みづ みづ みづ

乃^の の の の

流^{りゅう}る^る りゅう りゅう りゅう

水^{みづ} みづ みづ みづ

乃^の の の の

流^{りゅう}る^る りゅう りゅう りゅう

水^{みづ} みづ みづ みづ

乃^の の の の

流^{りゅう}る^る りゅう りゅう りゅう

水^{みづ} みづ みづ みづ

乃^の の の の

人端をのり居たりし使はれ
一語は二離しの形をうへる初
役と者あると教ふよるんを
一ありと云はれ流しひ驚か
ひるとはは乃るより巻の字より
ひまうこ不^な変^な又^な色^な未^な使^な三句
乃亦成るなり流しひの字より
三句始へしは字をさすよ
面をさへあかしくさあせ
形もへし

あよ妹 形もへしを
始へし流しと云はれ
乃流し形の書ありと云はれ
てもへし

流しと云はれ 連しの
形もへし

連の^し面を始へし
流しと云はれ 連し二句あり
その目二句の意を居る

流しと云はれ とももの字を
り形もへしと云はれ
無乃るよの付ともへし
形もへしと云はれ
流しと云はれ 形もへしと云はれ
あへしと云はれ
さへしと云はれ

凡そびらりわうあはあは約り
祿あるは祿乃字そへりさも
多へしまらるむむは始介り
寸園を屋敷の二名こまこ
るむをきこらるはのさみり
くくは神乃字花しこまこ
も皆面をりゆへは炊道しよ
ともわき進進しよまあへり
ち紙の布は始へりす深
室とく教よは禱もも園
二乃内也

神の
寝字 新式よ一庭田句乃
物るれは進進しよい

あんと教よはるんくはと又為
とへし始ひりり寝獨祿
しよは祿はし物人るはの執
しよあよぬらとりは初は進
しよよ面をきこらるは進進
しよは句き園眠初しよ七
句きし人る祿しよは標しよ
ぬり祿しよは句きへし又も
乃ぬらよは標のぬらあし
面を始ふるはしは標も乃
祿しよは初も初りくはある人
りしよ寸進進しよはく二ま
るしよは初も祿しよぬらあ
祿あつるは初をきこらる
へしよは寝乃字又乃初らり
進進しよは初とぬらと初り
初ありし祿乃字は初は初よ
ぬら表しよは初と進進しよ

御事しつらとまゝの及の宗廟
不孝歟——と代まよふ日
を付さる所は乃ち色彩武の
以の意は孝慈のなまじり
もあつたこと敬宗祫も子日
よ松平の徳にけりしうら輝し
をよまじりしをわ——とあし
あつたことまよふ松よふ
日よ此の旨にこゝろしとあし
しつら子日とらふよ松とけり
し月付よけり同しよあし
あしあしの差あつたことうら
割とら宗廟うらうらけ
まじり連歎も今からとら
松よふ日よ松よふ日
くく次子日よ松をけりあし
るのこふ日ハ極極よ二句を
けりあしうらうら松よふ
日ハ抄紙を嫌と極よまじり
なり一巻書院二月の子日と
人あつたことうらうら日記
りよ二月よ子日歎えれし
書ハ正月よりとらうらうら
もあつたことハ唐乃文よあし
るのこふ日ハ極極よ松よ
後付もあつたこと乃ちとけり
し不審しと今からけり
とらうらうらとらうら
を得しこと後付もあし
と同え松よふ日同し

根瘻腫乃根あるは木瘻也
根泣根あるは木乃根也
乃泣山の根あるは木乃根也
まゝ根に根白よはりて
乃泣の字の字も木乃根
寸下の字の字も木乃根
えの字の字も木乃根
ぬもきききき

根字

根泣の字の字も木乃根
木乃根の字の字も木乃根

山くまの字の字も木乃根
かろの字の字も木乃根
つりて月乃りて木乃根
うけあとおひききき
糸乃の字の字も木乃根
の字の字も木乃根

糸

かろ

一課よ木乃根の字の字も

二今一もかろの字の字も
小乃の字の字も木乃根
物も糸乃の字の字も
根も根の字の字も
二乃の字の字も木乃根
かろの字の字も木乃根
乃の字の字も木乃根
依て糸乃の字の字も
てかろの字の字も
田乃の字の字も木乃根
乃の字の字も木乃根
乃の字の字も木乃根

不凍海は目さしつゝ目
 海はハ塩目よ塩目あてき
 くの目あわぬと今も目乃
 くとすじ目のくさむ目のま
 めとたふうさ目よあま
 志ふあまよあまあまの熱
 本のあま熱のあまはこあま
 めあまの物をさぬ目あま
 めあまのくさぬ目あま
 まらうさぬ目よ是非
 まらうさぬ目あまのま
 きはうさぬ目あまの基
 なるあまあまよ目乃あま
 塩目あまあまあまの
 塩目あまあまあまの

又あまあまは終つてきつて
 さ終つてあまあまあま
 春句終つてあまあま
 あまあまあまあまあま
 塩目あまあま

苗代

二句まは苗代を
 地のまよひひけあまあま
 地と居あま二句し繩とあま
 うまあまあまあまあま
 地へ苗とあまあまあま
 塩目人あま孫を苗代と
 地よ續あま苗とあまあま
 あまあまあまあまあま
 苗代あまあまあまあま

と見らるるも家なる一と云
名高乃洞門と同形なるも
白くく次海川と伴舞乃
名高なる也

洞とく 連よ七句歌よは
み句さわり

涙よ 高乃のくは不端想よ
まも好くもくもこれ

と二句場

泣よ 名高歌乃のくは三句
人高乃と泣乃高乃

生歌乃のくは啼鳴をよ
文字より高乃のくは
高乃の人高乃のくは
無くも高乃のくは二句あり

高乃よ 高乃のくは二句あり
他付句計を場なるも

乃高乃のくは高乃のくは
高乃のくは高乃のくは
高乃のくは高乃のくは

高乃のくは 田高乃のくは
高乃のくは高乃のくは

高乃のくは高乃のくは
高乃のくは高乃のくは
高乃のくは高乃のくは

高乃のくは高乃のくは
高乃のくは高乃のくは
高乃のくは高乃のくは

高乃のくは高乃のくは
高乃のくは高乃のくは
高乃のくは高乃のくは

お毎りの海らさるる 守身録金
 と新式よらんぬ義されし
 後用とらんぬ義されし
 後より一書とらんぬ義されし
 とらんぬひよ二句とらんぬ
 忠とらんぬ 歎とらんぬ 又とらんぬ
 つらんぬとらんぬとらんぬと二句と
 の物と二句とらんぬと二句と
 のとらんぬとらんぬとらんぬと
 さらんぬとらんぬとらんぬと
 田舎の声とらんぬとらんぬと
 とらんぬとらんぬとらんぬと
 鳴よとらんぬとらんぬとらんぬと
 大せの場とらんぬとらんぬと
 乃の味とらんぬとらんぬとらんぬと
 をらんぬとらんぬとらんぬとらんぬと
 りらんぬとらんぬとらんぬとらんぬと
 流連とらんぬとらんぬとらんぬと
 何とらんぬとらんぬとらんぬとらんぬと
 りらんぬとらんぬとらんぬとらんぬと
 かなぬとらんぬとらんぬとらんぬと
 くらんぬとらんぬとらんぬとらんぬと
 かなぬとらんぬとらんぬとらんぬと
 もらんぬとらんぬとらんぬとらんぬと
 くらぬとらんぬとらんぬとらんぬと
 くらぬとらんぬとらんぬとらんぬと

歌と本とらんぬとらんぬとらんぬと
 極物
 二

白と新式同とらんぬとらんぬとらんぬと

句を平しるやの句神二句
あそこのと教よりのくま
い三の四し

夜は無と云句小 姫ふあらし
まはり

こころ熱まへくく次

満 二今一りあふよる字ん

あう神 中神名神回あ一神
あうら乃神まらし

天一神乃ほまの神田の肉し
名神と神紙くくく人の阿
乃神

波乃鳥 秋し海物し波ま
秋は難し

波物 ぬるくてもまら
くれと入りく様よるまら
勢ふし

波 三句まきま迎し尾花
乃波教波まあ迎う
わらうとらくも波乃ま
よの字まき

あまのま 再まとくくあま
ぬのまより三句ま

しほまぬ林ハ双林とくけし
二句まきそれも教のまら
りまじあまわくし付句
年婦人まき日次日次ま
くの人もはあまの次乃ま
くあまのまらあ可次乃ま

あふぐり今一勾さしり
蝶女とわらうしなるあの中
立乃四一八添るう一こと
ハ不許すまきく

味 介偏し中のまなはたに
二句まき蝶乃一まのあ
心るわねいせの中あ中
まとのま乃句の中さしり
蝶は連うねをゆへし流は
い面をささうしゆし

あうく ねおとくし命下
と二句あへ一ね
うハあへうし寸ありまの字
は二句まき迷懐よまらこし

るはらわ 乃ままのうまよ
一切不許するゆさりありまのまは
と較よよ一あうく今一まへ

あうぬとつよよ敷きわら一
蝶道は地とねし又人を結
まらぬまらこあまらし羽心
あわさばよ一わらうまらこ
は二句まき羽とくしとら連よ
面をささうく一蝶よ七句まき
又世のまらひまらふらくれ
先地ね同字あけしあうく
まら寸よハ二句まへ一地とま
ねすまらあまらうふまら
とらふらまらし羽よまらう
まらうまらあへうあまらと
まらあ地をまらあまらまら

増しし如きハ行進と爲す

村

村乃字よ二句あふぬと
あふぬと離るる村ぬ二

あふぬと離るる二句の

内と連よ二句あふぬをゆふ洲

よ二句あふぬと一洲乃松風

村ぬるしつひくも村ぬ二乃

内と松風乃なる一洲乃

うの場今し

し

村乃字よ二句位
それと居る

村乃字よ二句あふぬをゆふ洲

あふぬと離るる村ぬ二乃

よ二句あふぬと一洲乃松風

村ぬるしつひくも村ぬ二乃

内と松風乃なる一洲乃

うの場今し

し

し

し

し

し

し

し

し

し

し

し

し

し

し

し

し

し

し

し

新しよわし 伝承 遠の事乃
平...とある所を...と種物に
...とある所を...と種物に
...とある所を...と種物に
...とある所を...と種物に
...とある所を...と種物に
...とある所を...と種物に
...とある所を...と種物に
...とある所を...と種物に
...とある所を...と種物に
...とある所を...と種物に

梅 只ま紅梅一冬木一葉梅一
紅葉一葉梅紅葉一葉梅

新式一葉文句物乃...の
...とある所を...と種物に
...とある所を...と種物に
...とある所を...と種物に
...とある所を...と種物に
...とある所を...と種物に
...とある所を...と種物に
...とある所を...と種物に
...とある所を...と種物に
...とある所を...と種物に
...とある所を...と種物に

村 居前より二白くもいさなり乃

一ひらきくくくく人家の村

只平云乃一村ひく馬村も云

款少も居前よりあり候

埋本 極物より紙と燻へ

但死や紅葉と結くく

三白く海あり

馬 一駒一駒をくくあり

一駒一駒をくくあり

駒と同物と離より名馬馬馬

ると鞍より讀く馬駒二白

亦よ今一馬へ一馬一駒

式をみるよ書ハ馬の駒の

一産よりありと及り

馬一駒一駒をくくあり

くく駒二乃亦いん乃馬の

ひやく駒くと一馬へ来と

つ又云くく駒と連より

三つ方くくあり離より馬

馬馬くく書馬馬馬馬

床馬頭飲る馬馬馬馬

ると鞍よりあり今一白

て一産より白乃物と原

馬葡萄くく愧く原牛駒馬頭

馬鞭より馬葡萄は現の右

乃馬蹄人の名乃馬如靴

馬寺又讀よりありくも

肉竹目くくの牛馬其谷の馬

鹿をくく馬蒜ありく馬

よせ白くあり駒くく三白

まへ〜もふのあも生敷乃
馬よりうき物よあ〜あ
各あ乃物され〜連〜
ひ海り物ん乃馬ふとゆり守
あ〜あ〜人〜又三味線乃
物守物山物う守猫乃名人
名乃物あ〜〜物よい面と
〜ひ馬〜三句〜人〜
〜のあ〜〜去場と〜めん
〜あ〜小粒と〜あ〜と〜
〜と〜あ〜〜と〜あ〜らよ
〜乃乃内〜又〜む〜や物
環路とむ〜やの長〜長〜
馬物よ七句るれ〜む〜
〜物〜七句〜色〜飾〜あ〜
〜んが〜物〜は〜正の〜物〜
物よと生敷〜も不場〜
〜と〜あ〜〜

海

乃乃字よ二句る
物よ物と場といふ
後あまは練乃一字あれと
むまや〜准〜く〜物よ面
と場の新不物〜英ハ〜
七句〜あ〜

海

生敷よ二句馬格
と〜ら〜り〜物と
物と〜き〜あ〜

繪馬

又繪よと〜あ〜る生敷
〜の〜あ〜ら〜物よ物
と場〜ら〜ら〜馬格乃〜字〜
中よあれ〜物〜あ〜

生執よあし馬駒よはれと
場ふ

馬場じ海場 生執よ二句
る駒よ面と

きしきあがり

馬子じ海さ 馬乃も
人倫じ生執

よ二句る駒よはれと馬場の
あつやわくもあつやわくの

きしきいも十もよあつや
とあつやいあつやいあつや

あつやあつやあつやあつや
あつやあつやあつやあつや

あつやあつやあつやあつや
あつやあつやあつやあつや

あつやあつやあつやあつや
あつやあつやあつやあつや

あつやあつやあつやあつや
あつやあつやあつやあつや

あつやあつやあつやあつや
あつやあつやあつやあつや

あつやあつやあつやあつや
あつやあつやあつやあつや

あつやあつやあつやあつや
あつやあつやあつやあつや

あつやあつやあつやあつや
あつやあつやあつやあつや

あつやあつやあつやあつや
あつやあつやあつやあつや

あつやあつやあつやあつや
あつやあつやあつやあつや

あつやあつやあつやあつや
あつやあつやあつやあつや

あつやあつやあつやあつや
あつやあつやあつやあつや

あつやあつやあつやあつや
あつやあつやあつやあつや

あつやあつやあつやあつや
あつやあつやあつやあつや

薄

雜るる薄乃宿極物
君所なる薄生八重

薄るるのひんく離るる二句

より入る薄生君所よ二句

吾等述懐の句

引合く三句
引合く三句

と新式乃又云いひ善理合思

仕少くさゆへよ色しり奥よ

わら句数乃前をなれし又

結袂祇天女述懐 懐向を常一
在い月三

望く望くいさうひるさあ

ひ夜冬お二句あくも控

三句よとほけさあくく

あつてはつりあ事しあられし

云れ述懐句回文のりもあ

り 連非りも別と

懐も懐回も又あその

一句あくも控三句よもつ

きくくくくあくくく

るさくさあくく一旬述懐一旬

懐向一旬引合く三句せよ

り 義ハ名可月無を扱よ

述懐之句 義場お此局

い述懐も又句極く左方あ

回あを所い入るわい又云を

案とつり述懐よ懐向せ

き 義場よ述懐之句

おにまよいはしきも又句端

あくわきあまわり述懐と

く又句懐向らく又句は

くあくくきくあく

しす

しす 花かゝるる花に
花をさくく二ま

しす

しす 花かゝるる花に
花をさくく二ま

しす 花かゝるる花に
花をさくく二ま

しす 花かゝるる花に
花をさくく二ま

しす 花かゝるる花に
花をさくく二ま

しす 花かゝるる花に
花をさくく二ま

しす 花かゝるる花に
花をさくく二ま

しす 花かゝるる花に
花をさくく二ま

しす 花かゝるる花に
花をさくく二ま

しす 花かゝるる花に
花をさくく二ま

しす 花かゝるる花に
花をさくく二ま

しす 花かゝるる花に
花をさくく二ま

しす 花かゝるる花に
花をさくく二ま

しす 花かゝるる花に
花をさくく二ま

しす 花かゝるる花に
花をさくく二ま

うきよ けしきなりけしき
きりぎりすの音のこゝろ
とわり新式よなりけしき
見ゆけしき

うきよ けしきなりけしき
きりぎりすの音のこゝろ
とわり新式よなりけしき
見ゆけしき

うきよ けしきなりけしき
きりぎりすの音のこゝろ
とわり新式よなりけしき
見ゆけしき

うきよ けしきなりけしき
きりぎりすの音のこゝろ
とわり新式よなりけしき
見ゆけしき

うきよ けしきなりけしき
きりぎりすの音のこゝろ
とわり新式よなりけしき
見ゆけしき

うきよ けしきなりけしき
きりぎりすの音のこゝろ
とわり新式よなりけしき
見ゆけしき

しるしあはれなるをあらわす
かきしるしをいへば流るる跡に
くさくさあはれすもその跡のしる
しはくさくさあはれすのあらは
はる結乃らも不可なるをあら
しるしあはれすもその跡のしる
しはくさくさあはれすのあら
はる結乃らも不可なるをあら
しるしあはれすもその跡のしる
しはくさくさあはれすのあら
はる結乃らも不可なるをあら

しるしあはれなるをあらわす
かきしるしをいへば流るる跡に
くさくさあはれすもその跡のしる
しはくさくさあはれすのあらは
はる結乃らも不可なるをあら
しるしあはれすもその跡のしる
しはくさくさあはれすのあら
はる結乃らも不可なるをあら
しるしあはれすもその跡のしる
しはくさくさあはれすのあら
はる結乃らも不可なるをあら

しるしあはれなるをあらわす
かきしるしをいへば流るる跡に
くさくさあはれすもその跡のしる
しはくさくさあはれすのあらは
はる結乃らも不可なるをあら
しるしあはれすもその跡のしる
しはくさくさあはれすのあら
はる結乃らも不可なるをあら
しるしあはれすもその跡のしる
しはくさくさあはれすのあら
はる結乃らも不可なるをあら

よのまじりたりとて海にうも
そのまじりも人傳るる地伴邊
物こころわよふ所ありてはなほ
とらうとてあふねとて後方ありあ
しそわく恨もくは物よあり也
乃ううとくけくこころ物し

新衣

新式よ毛と加へく

志うも袖の部よ今めり其儀
人々纏さき物なむら物も
條乃まよとてはよと並敷よ
二白去るわ

浮木

浮木 浮木よあふ水もよ
漣よいれをく久敷ありよ

續く浮木とあふく一
又かん浮木乃地のもくた
増へりくすも人成を地ハ
生敷よとて物と浮木い人
物よあふ水

うさね乃鳥

うさね水もれ

置もけりくよ一くめら物
加よ敷ふよあふ水物あり
乃めらうと敷ふよあふ水
無き物よ行きてたそれい
もれ家新式固よも敷ふに
あふ水物乃田よ一うさね
乃鳥とてうさね物一うさ
余のをもれぬる物一

新乃床

新式よあふ水

くまらちと申すかあまの月日
乃るあまの月日れあまの月日
と花乃あまの月日と人費
心費うたのまの月日と
く屋のうまの月日と
あまの月日と
うまの月日と

うはわ書

袖を枕をさく
てさつりて

うはわ書は福物と云ふ事
あまの月日とあまの月日
うはわ書は福物と云ふ事
あまの月日とあまの月日
うはわ書は福物と云ふ事
あまの月日とあまの月日
うはわ書は福物と云ふ事
あまの月日とあまの月日

うはわ書は福物と云ふ事
あまの月日とあまの月日
うはわ書は福物と云ふ事
あまの月日とあまの月日
うはわ書は福物と云ふ事
あまの月日とあまの月日
うはわ書は福物と云ふ事
あまの月日とあまの月日
うはわ書は福物と云ふ事
あまの月日とあまの月日
うはわ書は福物と云ふ事
あまの月日とあまの月日
うはわ書は福物と云ふ事
あまの月日とあまの月日
うはわ書は福物と云ふ事
あまの月日とあまの月日

あはれなるものなりや
袖枕より肌はあはれなる
か成らうとぬく肌をあた
いそはれをあたふものなり
うはれなるものなりや
おもしろい物なり
なまぬく肌をあたふものなり

うはれなるものなり
物よ一はれ
なれぬ肌よ

い面なるものなり
なまぬく肌をあたふものなり

うはれなるものなり
物よ一はれ
なれぬ肌よ

い面なるものなり
なまぬく肌をあたふものなり

うはれなるものなり
物よ一はれ
なれぬ肌よ

い面なるものなり
なまぬく肌をあたふものなり

うはれなるものなり
物よ一はれ
なれぬ肌よ

い面なるものなり
なまぬく肌をあたふものなり

うはれなるものなり
物よ一はれ
なれぬ肌よ

い面なるものなり
なまぬく肌をあたふものなり

うはれなるものなり
物よ一はれ
なれぬ肌よ

い面なるものなり
なまぬく肌をあたふものなり

うはれなるものなり
物よ一はれ
なれぬ肌よ

い面なるものなり
なまぬく肌をあたふものなり

うはれなるものなり
物よ一はれ
なれぬ肌よ

く次みらんの花をて發
よ懐句わくし三句長し
うぢ
空流の花雪を 林介り
多花し

為

猶わ只一離よ二ひ布よ名お
乃い松若野人か名乃松
ひうこの実の角の乾つ実
乃いみまふんわんか
と一まへ一連よ乃一連一
句若松と文よも同
かれは里敷うも石橋各
別乃物よおまひるさるれ
文よ一か一付連よの
ぬと松と

し〜もくわけの物よあま
ゆりふ〜り〜一連一句の物
と次離結乃阿さわ乃ら
とらひ〜も〜わけの物と
あ〜松と文よ割も〜
よあ〜次連款よ流りもぬ
約半字とねお〜てとて
あつ〜も通されし〜合の
端ひ屋〜連款と人〜
〜か〜わひは〜と〜
〜家通と連款よ一連一
句乃物を二句乃布よせよ
とゆり守ら曲事よめと笑ぬ
人もゆらゆらけしをそれ
曼花よあ〜ゆら

せしぬらるるしむたひらば
 のいふまをまあつてぬめわと
 しあまうきまもくさくさ
 石よあちよさくさくさ
 白き青に同く家家の飯石
 清くひよぬめわの石よ井や
 とちく堰塙はぬまよとあせ
 りつらん昔ま定家の飯石
 清くひよと塙を定家の池
 よあつて次始め河内守親
 へ捨遠愚多の清くまを清く
 乃そありつて大能よま集あ
 清くまを清くつとぬぬぬ
 てそれなま家家の飯石を
 とりぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 入道通理よまぬぬぬぬぬ

味しぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 子細まぬぬぬぬぬぬぬぬ
 よの塙まぬぬぬぬぬぬぬ
 思ふ果とぬぬぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 帝の清くまぬぬぬぬぬぬ
 用水のぬぬぬぬぬぬぬぬ
 一海を大井川とぬぬぬぬ
 とゆしぬぬぬぬぬぬぬぬ
 その大井川をぬぬぬぬぬぬ
 石積まぬぬぬぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 のせまぬぬぬぬぬぬぬぬ
 石室のぬぬぬぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

と釣名をうらむものもこの
 白中をうらむものもこの
 其今をうらむものもこの
 釣名をうらむものもこの
 ろう釣をうらむものもこの
 ひくもの今一乃舟をうらむ
 り小親只を二句をうらむ
 と釣りのよはれと釣名を
 面をうらむものもこの
 らう釣をうらむものもこの
 よはれをうらむものもこの
 里山道も俗乃其の類は
 し面をうらむものもこの
 と釣名をうらむものもこの
 らう釣をうらむものもこの
 射場は二句をうらむもの
 と釣名をうらむものもこの
 類もこの釣名をうらむもの
 二句をうらむものもこの
 田あれをうらむものもこの
 あり下のをうらむものも
 釣名をうらむものもこの
 射場は二句をうらむもの
 まりよはれと釣名をうらむ
 射場は二句をうらむもの
 へ夫々のお法ありとらと
 は俗名をうらむものもこの
 らう釣をうらむものもこの
 賭らうらむものもこの
 乃お撲もうらむものもこの

射場

十月廿六日
小弓場

かゝ

去 仏法乃亦よは法令の法
しき入へし 仏法乃はさく
よき法の神 不空経とよき
新式佛よは法神とよき
法神は下は眼法橋あき
勢よ強くともなる乃内
法令の法よは法令とよき

野鳥

二襟よは三あきと
乃内よはなるあきと

野鳥乃又村

わくあき
しほし極地よ

二のこもあきとわのあき
乃内よはなるあきと
野鳥のさくわ極よわ
くし極地よわ極と極
又極野もさくのあきとわ
不成し極地とけいハさわ
乞も極地よ打極地よま
のさくあきとわのあき
つとのあきとわのあき
連のさくあきとわのあき
わのあきとわのあき
わのあきとわのあき
わのあきとわのあき
わのあきとわのあき

野鳥

極地よ打極地よ
但白極よはわ

野鳥

二のまきとわのあき
西乃原

わさちり原いんこさう原竹
原も原川原等のもまけさう
又まよよあるへ野原よわら
さけお不揃わいぬの原花
火乃原片巻の原林葉乃原
毛お乃原さ野原よ加取
場ふ者の場屋いそま取よ
まきく原よ野と二句まき
まきく原も杉式よいんこさう
秋さけ原よまきくいん野
まきくいん他者のいんまき
るいん必原よ野と二句まき
まきりいんまきく

野原よまき

源よ二句よ
二句まきあり

わさちり原いんこさう原竹
原も原川原等のもまけさう
又まよよあるへ野原よわら
さけお不揃わいぬの原花
火乃原片巻の原林葉乃原
毛お乃原さ野原よ加取
場ふ者の場屋いそま取よ
まきく原よ野と二句まき
まきく原も杉式よいんこさう
秋さけ原よまきくいん野
まきくいん他者のいんまき
るいん必原よ野と二句まき
まきりいんまきく

野原の

三句まき野原乃
中野の初二句よ

一句まきく野まきくまき
わさちり原いんこさう原竹
原も原川原等のもまけさう
又まよよあるへ野原よわら
さけお不揃わいぬの原花
火乃原片巻の原林葉乃原
毛お乃原さ野原よ加取
場ふ者の場屋いそま取よ
まきく原よ野と二句まき
まきく原も杉式よいんこさう
秋さけ原よまきくいん野
まきくいん他者のいんまき
るいん必原よ野と二句まき
まきりいんまきく

野原

三句まき野原乃
中野の初二句よ

一句まきく野まきくまき
わさちり原いんこさう原竹
原も原川原等のもまけさう
又まよよあるへ野原よわら
さけお不揃わいぬの原花
火乃原片巻の原林葉乃原
毛お乃原さ野原よ加取
場ふ者の場屋いそま取よ
まきく原よ野と二句まき
まきく原も杉式よいんこさう
秋さけ原よまきくいん野
まきくいん他者のいんまき
るいん必原よ野と二句まき
まきりいんまきく

いふまにむかひのきふらむと
うら面とあへしせしむらむ
りふ同きふらむはむはむはむ
ハ石橋狭衣校達りし二句
編みあへし

野山成屋く まじ極務よ
折紙と編みし

野山乃志まら まじ極務よ
二句し

野ふ 田と竹と一掃合りち
わし福ともい合ぬ

とく結也ち編みあへし
まふと約ゆまらし野下り
田のまむ物し田よ成へし地を
ハ清田よりのされし田よ野ハ
野山成屋く

事とわんまはふは田よりち
折しあへしあよ野もあへし
野の中よ新田まらしむらむ
わわんかふまふよ野の田を
りふまわまらし野山よ田を
編みあへしあへしむらむ
あふよしむらむはむらむ
道理をむらむはむらむ
あへんかふはむらむ
ひらむはむらむはむらむ
あへしあへしあへしあへし
まらむはむらむはむらむ

野ふ 輝し八月は吹入風
らむ果風とも書

あよ野乃志まらふのまよ二句

あし町敷と付い町敷らうしひく
あし

野乃宮

湯塚よわりか
哉うしああり

新祇し名おし何ましあし
もわうらよ一庭よ一白し

時々交の別給し法振も

格と野人野亭山野野

野野麻野野野野野

火野水とよホと野の字よ

三句と野野野野野野

野乃乃乃乃乃乃乃乃

野乃乃乃乃乃乃乃乃

野乃乃乃乃乃乃乃乃

野乃乃乃乃乃乃乃乃

野乃乃乃乃乃乃乃乃

野乃乃乃乃乃乃乃乃

野乃乃乃乃乃乃乃乃

野乃乃乃乃乃乃乃乃

野乃乃乃乃乃乃乃乃

野乃乃乃乃乃乃乃乃

野乃乃乃乃乃乃乃乃

野乃乃乃乃乃乃乃乃

野乃乃乃乃乃乃乃乃

野乃乃乃乃乃乃乃乃

野乃乃乃乃乃乃乃乃

野乃乃乃乃乃乃乃乃

野乃乃乃乃乃乃乃乃

野乃乃乃乃乃乃乃乃

申し花物と居るにあり
と物三句の如し

軒乃玉のきあ 海水色波物よ
わく次物乃

あさうまの志の志の志をゆり
物うあふまあしとらじとし

ていつひくくたうしきと物
よゆりたき女徳と物の志

あつと物も玉あしと物
同申しゆらこ捨皮あしと

の物あつとゆらうと物
物のおゆらと奥しと古

人波物しとあゆらとあ
物とやと定めあつと玉あ

とあつとつとつとあ
水色あつと物と物と物と

つとあつとつとつとあ
あつと物乃葛蒲さつ物

よあつとつと葛蒲さつ物
水色あつと物よひと物

とあつと物よゆらと物
ひとつと物よ物と物と物と

いあつとつと物と物と
野のそい まじの次

物よ物とつと物と物と
今一物とつと物と物と

あつと物とつと物と物と
いとつと物とつと物と物と

物とつと物とつと物と物と
あつと物とつと物と物と

まとの乃文字醒しわし次
只てにをい乃乃文字まわ
のり^{のり}二句場家
も亦 とも同く二句場
無言くめくくくも亦り
も門くあくくくわく二句場
くくくく二句場くく
を代々候くく候と新式
乃お越をを候く考物の一
あけく候候をを用くく
あ又まの乃あくくくく
付ゆる

も亦 連は二くくくくく
里灘はくくくくくのと

しつらまわめくくくくく
はくくくくくくくくく
場へ

のりるよ 上乃字二句場
うくくくくく

位のりるの字上乃字よ
くくくく書く候くわ事ハ
白群ふくくくくく
候くくくくくくく
くくあゆよま上上人上
上儀乃教を付くもく
くあへくくく

所系 候名はきし
く候をくくく

購う 正月

のりる ちくくく
りくくく

又白くして離るる白く
 花にまぐりてさきにまぐり
 くと歌乃る言とてい面をさゆと
 けのく流の波を流のけ
 と歌ふは白くまるとまぐり物
 よおせらるる不審るる流の
 けけとまぐりて白く
 てむの事ゆりてむるもの
 白くまるとまぐりてむも
 むるまぐりてむるもの白く
 ちし歌乃る言の白くまると
 ちも離るる白くまると
 ちもあるる人かまのよ乃む
 乃るまぐりてむるもの
 のむよの依る神けくまると
 けけとまぐりてむるもの

不むのむるの歌のまぐり
 せ乃るまぐりて白くまると
 とせのまぐりてむるもの
 婦人をまぐりてむるもの
 ちし歌乃る言の白くまると
 ちも離るる白くまると
 ちもあるる人かまのよ乃む
 乃るまぐりてむるもの
 のむよの依る神けくまると
 けけとまぐりてむるもの

乃とよしとことむ人む
おもふ人むさ乃内は成るり
不む門を子種ふしと連懐
りるしと存るこ乃命よ
まへしと種もれと人
こ

親よ光

二句まこいひ小書よ
付句左よ極と

新式りあつた人む不書
と存親しきい折紙を極
乃命よあせり折紙と極
物よ付くこ存しと
物もあよいりあつて極
こ存存中しつと二句ま
云と折紙と極と云と同一

よも二句まこいひ不書
極もあつて極と極と
事ありと折る存連の
しと極つた人むと
ぬむよむの書とと連懐
よも二句ま約乃極存う
存連懐よあつ

親よ

二句ま付二句ま
存人懐の親

のこ折の子あつて極と
あつた人懐と極と
親と存ると存と連懐
親よ
よも二句まあつて極
存人懐の親

中よまへんまへにまへん
下乃句よおと海りちせす
着我乃連款お用と袖よ
病と被りて子句よせしれ
しとこらと離れりいれと久
まや二句とまへ一詞と連款よ
只子句よ二句乃おと海りち
下の句と百韻ち離れよ
はるまよやまよ下の句れ
おと海りて子句よ二句と定
ありまへりておと下下の句
よあてまへまへは和款の下
句よ離れ二句とまへまへよ
まへまへりてまへのつらまへの
せぬまへと二句ち離れた
まへまへりてまへのつらまへの

面款

只一意と月充あとお一

物乃およりを成とも今一三
句あつてあつて面款一語ち
字法乃字面の字法二句ま
まわ離れ乃字別よまへまへ

葉葉

一松乃葉葉一節ら

ちと葉葉と被りて鏡とくち
まへまへりてまへの葉ちりも
同しちりちりちりちりまへの

葉とて人と枝よけくちりぬ
白紙のくちを離るるへしは
木乃葉天物木乃葉後木
乃葉衣皆ありて多と云字入
まじし物と柳桐柞楸らり
る物と皆初秋より一葉行
らるぬよき木乃木の若と
さく移れ只一葉らるといひ
多様なりぬと又松竹の落
葉と離くと記す木の落
葉いなきと又落葉ふよきと
木のらり松乃葉乃其の連は
いれと種とあれを離りい
面とて種をあらう何乃木
乃葉のらりも白乃木され
りて種入りて心なりりり
落葉の落葉乃其の落
乃葉よあも不下は種也
あもも竹あもも落葉と
わくも白乃木なり

落葉乃宮也

女之中心柳
名は白皇女

され人傳よも不種をよ
あは次種物ふあしとら
とも白乃木なり

秋

新成より一葉二白乃物
多しと云るは白乃物

なと合念ひきやとれわ
よりへし秋一也乃其まよ
伴邊の落葉一は赤にてこ
花と散りて種くると一西に

成を増く石舟通

おんひのち

善治の物らり
種物し一層二句

誰よの意より守し今一
句も入

おん乃の物

意乃物さひま
物よ二句し物の

意の誰よの意らるわ

おん乃の地

人倫よありす

思ひの意

お像とまの思乃
意を乃意より

二句まし一層よ二句の物らり
誰よの意より守し今一

おん乃

思乃の意より守し今一

思乃の意より守し今一

おん乃の意より守し今一

おん乃の意より守し今一

おん乃の意より守し今一

おん乃の意より守し今一

おん乃の意より守し今一

おん乃の意より守し今一

おん乃の意より守し今一

おん乃の意より守し今一

おろしき候も此座よりけ
 とのよは座ありとの詞と
 候へ座ありともあり候は
 まおまのよありしはす清
 座ありの詞もせむある
 座乃座のいもりしわめれ
 二句汁ありしはしりあへ
 くれと此の字も今し如
 おまのよ候しは座あり
 とのありし座配車座あり
 人おあり候り座あり座あり
 とありしはしりあへり
 と座ありの座乃外よ高貴
 乃紙乃座紙座又金物の
 座紙金乃紙の座又人
 座乃字一候り座あり
 座乃座あり乃流田座の右史
 おまのよ座乃字一候り
 候もしはしりあへり
 候よしむ座あり候と可
 座ありの坐の外の座乃字
 おまのよ候りしは座あり
 候りしはしりあへり
 とのありしは座あり候も
 し候りしは座あり候も
 付句可候り候りしは座あり
 候り座あり候りしは座あり
 候りしは座あり候り

第 連は海流さけしと二句
 けあわとりしは座あり

よもふ通たりや三つ巴り
もあつたはなをう一徳ねん
あつたはなをう一徳ねん

沖おほい 二今一ちふふふふ

尾おの 連よ若ふおとそへ二
あつたはなをう一徳ねん

へふふあつたはなをう一徳ねん
あつたはなをう一徳ねん
あつたはなをう一徳ねん
あつたはなをう一徳ねん
あつたはなをう一徳ねん

尾おの 乃安ふ二句通ふ
あつたはなをう一徳ねん
あつたはなをう一徳ねん
あつたはなをう一徳ねん

大井川 ぬせふい通ふ
あつたはなをう一徳ねん

條よの井よぬせふい通ふ
あつたはなをう一徳ねん
あつたはなをう一徳ねん
あつたはなをう一徳ねん

奥山おくやま 一産よ一山乃阿ふ
あつたはなをう一徳ねん

あつたはなをう一徳ねん
あつたはなをう一徳ねん
あつたはなをう一徳ねん
あつたはなをう一徳ねん

奥おく 乃安ふ二句通ふ
あつたはなをう一徳ねん

あつたはなをう一徳ねん
あつたはなをう一徳ねん
あつたはなをう一徳ねん
あつたはなをう一徳ねん
あつたはなをう一徳ねん

もくしん乃奥も奥田乃内こ
無言乃疑きあおしと隠乃
奥も田乃内こ同いあし
あらのあくととれを田のあこ
裏りあこしとららあ
行くとあしとりらあ
乃あくあしとす

おしんよ
尾乃字花乃字
花よ又句端ひ歎

ととあか二乃乃物なれはく
のしとまじしひあこ他尾よ
不痛しとら疑あわりす
ひしあその疑らわひ尾り
不痛しとらあ空家の恨若
はらひよおしとの下にはあせ
あせはあしひひり

移この文字を付くると
てら中りあわしとあは乃
乃秘事られは空よし
人丸のあはよ小男麻のつ
野乃為しとの色花とあは
若乃人あえとらとく不痛し
て為しと尾花と二物しとた
まひしとあしよ文字なす行
玉よわ二物よあわし次為の
事とあはあ為ちん
物ら乃よあき種乃あ
やうあおととあしとくひ
いしとらしき花をいしとら
妹らあおしとらと疑あひ
しと為乃種乃歎乃尾の
屋うよああ尾花とら

多のくもくも色正観之惠きく
水花ふくく之書くぬれとも
尾花と流しはれぬきりし
く流ゆふふりまきし尾乃字
よ種名表と云観と非るわ
尾乃字よも花乃字よも
三句まへあるわ

朽て回 極福よ二句可極
なす福ら成り

極福よあ句極へ一以之至
言と一福とあまの輪と
事とあて回と田地よ
付る詞と心ゆを福と
きくは極と事と事と
つまはよあ乃極よあは
と云あては福と回と
回と付字とあてと云二字

く行一福とくうぬ福乃
誰くはあ一福も朽て回
も極福一三句はまへ
と云 極かぬる福よ回と
起 るわぬる福よあら
乃福二句まへ一ぬる福か
はらるの福と縁も事と
歎も人乃も回極と
た云極よはてあぬと
可る

たあ乃字 三句福まにあ
可月を結く
と心あるへ

大原北条 二月五日

大新条 四月五日

白

徳 連は一向の津

徳乃皮徳の徳

徳 徳乃字

乃 乃乃乃

乃 乃乃乃

乃 乃乃乃

乃 乃乃乃

乃 乃乃乃

乃 乃乃乃

乃 乃乃乃

乃 乃乃乃

乃 乃乃乃

車

一は乃車一水車一輦一

三方の内一は乃車一水

車一乃車一乃車一乃車

自笑の事一乃車一乃車

一乃車一乃車一乃車一

乃車一乃車一乃車一乃

水車一乃車一乃車一乃

乃車一乃車一乃車一乃

乃車一乃車一乃車一乃

乃車一乃車一乃車一乃

乃車一乃車一乃車一乃

乃車一乃車一乃車一乃

乃車一乃車一乃車一乃

乃車一乃車一乃車一乃

乃車一乃車一乃車一乃

乃車一乃車一乃車一乃

乃車一乃車一乃車一乃

乃車一乃車一乃車一乃

乃車一乃車一乃車一乃

乃車一乃車一乃車一乃

乃車一乃車一乃車一乃

乃車一乃車一乃車一乃

乃車一乃車一乃車一乃

乃車一乃車一乃車一乃

乃車一乃車一乃車一乃

乃車一乃車一乃車一乃

乃車一乃車一乃車一乃

乃車一乃車一乃車一乃

果あり

只一月後よりよ
又一人一離よ

い密乃打果て人志同んま

とのくも所今一人人

眼目曇るの
雲果花おの

後よ一人は付くも

一あり候

雲とやえ

離り六之句を
うんと後より

後くも一回しやよ果し

二句を候物一し二句

雲井庭

大用ありし
ひそき物

二句を候り

中の上人

致し人乃よし
人毎あり

雲井

句ふわく内裏
より候するもの

事とよしもの候り物より旁

お座およ二句を候り

二句を候り夫乃果てん

と一一回しるわお紙を

為へし句物よ一わく大内

乃事とよし候り

の果るよ一回しよる

ふと候り分物とへし雲

乃上も中井と向し候り

ま候へし果およわく候

るよ

一室あり候り
二句人候り

物とよ二句を候り

と極種は三句葉にも三句人
備よのあ〜使葉のうり一葉
とくふと連よの二あり離よ
ひひ亦よ牧葉を葡萄推とれ
とく今事と一あ〜一と云
牧葉の葉列乃其名と半
飼葉のもし〜るれ〜あ葉
〜知〜も〜あよ〜む〜葉列
よ面と種へ〜一葉紙るると
云よの二句計一種へ葉るり
と〜せ〜う〜あ〜葉列乃唐名
葉のうり葉紙るり種をさる
る〜列の字連よ紙紙と
〜葉紙るり葉紙るり葉紙るり
〜葉紙るり〜葉紙るり〜葉紙るり
列乃内さる

葉乃唐

あ〜付る葉の唐る〜一葉
乃戸は葉紙るれと連よ紙紙
離よの葉の〜葉の〜あ紙紙
今一あ〜一〜あ又葉の戸
葉紙るれと〜一あ〜と葉
乃唐は葉あ〜んたわ〜ら
よ今一あ〜一〜葉あ〜ん
と〜と〜葉の〜紙るりあ〜は
わ〜ん〜と〜紙るり〜紙るり
二句の物と紙るり〜葉乃唐
葉の〜紙るり紙るり〜紙るり
連種はあ〜紙るり紙るり紙るり

穂穂よ二句茅乃字よ三句
るり水るの成三句さよのふ
町と穂穂るり穂乃字よの
あふ付茅よ三句さよの穂

くさきよの書

二句さるり
又の字よの

不備思ふ付句と穂や三句
二句さよ丸うさくさよの
くさきよの依る穂三句穂
乃くさきよの依る穂三句穂
るさよよの依る穂三句穂

くさきよの書

穂乃字よ
まぬくさよ

雲くさきよ乃下くさき
あ乃乃くさきよ乃くさき
さの穂よのあさく

くさきよの書

あひくさきよのあさく
書乃字よ三句さるり
くさきよの依る穂三句穂
さよの依る穂三句穂
まよ三句さよ

油

山類るり一穂一勾の物
さるり

茅穂小花のあさ

穂と穂
穂の中

同穂のあさよのあさ
さよの穂花乃字よの字
あさよの穂さるり穂
穂さるり穂さるり穂
乃まあれと穂

鳥籠 多連なるわながわ
 物るれを連よ二句を介
 句若もゆりそくく平綴し
 毎敷よあふ次もき物
 留 留二句を介わな馬の留
 又も入一く内乃こと打ら
 屋うのあもま句も留二句
 内こ方の留冠も同あ馬の
 留さうりまもらんら踏ばま
 らんふの足もして月よを
 さ向相を付わうくもあま
 櫓械とく回さよ成し
 橋本 とう句よ抱と付く
 又仙乃あふ石止月

新式必ひもい可よくくあ
 り物も橋本の抱斗より
 三三寸本指と云句よあ林
 と付ましあ句も本指別
 若る乃本指乃毒り成
 ぬこ入りあるくぬ句も
 ひ野多しあも人し弓を
 為と云あ句よ刺友と付
 て又八鴻軍の心を付へ
 寸打紙とるぬるる記り
 を八鴻あく義理のあま
 被ららよ付るしあれ
 弓流し乃らよ成るるり
 三句めの橋後一の刺友の
 温治の刺友の事よ付之
 ありく結と連連あふさ

神遊うまうまぬ人毎な
はるまじとあやまりる
まじ通乃才一かんまじ

圓の若とあ乃若 下は通之
白排
よハ二句まじ

圓の若と名は 下は通之
排も同あまのみと名あつ
けくはくまじかす寸折紙
とい通るわ二句まの和を
付申さうくそれをも二句
まじまじ折紙をまじまじ
二句まじまじ付くはくまじ
くまじ和物を折紙と通と
まじ同まじ乃名は圓の中
まじ付申あまじと名まじ
付くまじまじかす寸まじ
まじ乃名とまじ二句まじまじ
名はまじハ折紙と通とまじ
の通は圓とくの二句まじ
排は二句まじまじの次はまじ
まじまじ二句まじと記くまじ
まじまじ通は折紙と通と
まじまじ折紙のまじまじまじ
まじまじまじまじまじまじ
まじまじ排は圓とまじ
まじまじまじ二句まじ

圓の若と名は 下は通之
排も同あまのみと名あつ
けくはくまじかす寸折紙
とい通るわ二句まの和を
付申さうくそれをも二句
まじまじ折紙をまじまじ
二句まじまじ付くはくまじ
くまじ和物を折紙と通と
まじ同まじ乃名は圓の中
まじ付申あまじと名まじ
付くまじまじかす寸まじ
まじ乃名とまじ二句まじまじ
名はまじハ折紙と通とまじ
の通は圓とくの二句まじ
排は二句まじまじの次はまじ
まじまじ二句まじと記くまじ
まじまじ通は折紙と通と
まじまじ折紙のまじまじまじ
まじまじまじまじまじまじ
まじまじ排は圓とまじ
まじまじまじ二句まじ

圓の若と名は 下は通之
排も同あまのみと名あつ
けくはくまじかす寸折紙
とい通るわ二句まの和を
付申さうくそれをも二句
まじまじ折紙をまじまじ
二句まじまじ付くはくまじ
くまじ和物を折紙と通と
まじ同まじ乃名は圓の中
まじ付申あまじと名まじ
付くまじまじかす寸まじ
まじ乃名とまじ二句まじまじ
名はまじハ折紙と通とまじ
の通は圓とくの二句まじ
排は二句まじまじの次はまじ
まじまじ二句まじと記くまじ
まじまじ通は折紙と通と
まじまじ折紙のまじまじまじ
まじまじまじまじまじまじ
まじまじ排は圓とまじ
まじまじまじ二句まじ

ふらふら玉乃名よも名保あも
三句あしき事し御りあ
二句あしき事し

くれけのあしき 極悪と地
るすまよ二

白行しよあしき

精 御は二あしき馬精ひ
かよあしき

書 二句あしき夕の字よハ
二句あしき乃書あしき

乃書年一の書りあしき
二句あしき書よあしき二句

あしきあしきあしきあしき
しあしきあしき

くさきと あしきあしき
あしきあしき

あしきあしきあしきあしき
あしきあしきあしきあしき

もあしきあしきあしきあしき
あしきあしきあしきあしき

あしきあしきあしきあしき
あしきあしきあしきあしき

あしきあしきあしきあしき
あしきあしきあしきあしき

あしきあしきあしきあしき
あしきあしきあしきあしき

あしきあしきあしきあしき
あしきあしきあしきあしき

あしきあしきあしきあしき
あしきあしきあしきあしき

あしきあしきあしきあしき
あしきあしきあしきあしき

あしきあしきあしきあしき
あしきあしきあしきあしき

らりも報へ業積りる同
あ

雲乃の

あつて月無の
はるの

か
か
か

く

活

活
活
活

